



◆ 世界銀行東京事務所による防災セミナーが開催されました

世界銀行グループでは、発展途上国に向けて様々な支援（投資）を行ってきていますが、その中でも、気象・水文業務への投資について費用対効果が高いと考えており、この分野への投資を近年積極的に増やしてきています。一方、我が国は、気象庁や国土交通省水管理・国土保全局が構築している世界的に先進的な気象業務や河川管理業務を背景として、この分野において発展途上国への主要な支援国の一つであり、アジア・太平洋地域を中心に多大な貢献をしてきています。

気象庁では、世界気象機関（WMO）等による世界的あるいは地域的なセンターとして多くの役割を果たしています。具体的には、気象衛星「ひまわり 8 号」による観測成果の提供や「アジア太平洋気象防災センター（台風センター）」による台風の監視・予測結果の提供、様々な研修や技術指導を通じた発展途上国の専門家の人材育成など、アジア・太平洋諸国の気象機関に対して大きな貢献を日々行っています。さらに、気象庁は、国際協力機構（JICA）と連携・協力して積極的に発展途上国の気象業務の近代化や観測・予測技術の向上に向けて支援を行ってきているところです。

このような中、世界銀行グループでは、発展途上国への効果的な支援を行うため、日本の気象・水文業務（気象庁及び国土交通省水管理・国土保全局がそれぞれ、さらには連携・協力して実施している）の近代化の歴史とその経験から学ぶべきことなどをとりまとめるため、調査を行っています。今回、この調査から得られた成果の公表の一環として、以下のとおり一般向けのワークショップが開催されました。

第7回防災セミナー

テーマ：「世界銀行と日本の経験から学ぶ：途上国における気象・気候・水文サービスおよび早期警報システムの近代化」

日 時：2016年03月14日（月）午後4時～午後5時30分

場 所：世界銀行東京事務所（東京都千代田区内幸町2-2-2 富国生命ビル10階）

（一財）気象業務支援センターは、今回の調査の中で、日本の気象業務の近代化における知見とその中から発展途上国の支援において学ぶべきことについて、とりまとめを担当しており、その成果について、以下の二つのテーマで羽鳥理事長が講演を行いました。

- 「日本の気象サービスに関する考察および開発途上国における日本の経験の活用」
- 「途上国における気象・気候・水文サービスおよび早期警報システムの近代化：日本の経験から学ぶ」

なお、当センターでは、JICAによるフィリピンやモザンビーク等の気象機関への観測や予報技術支援について実務的な一翼を担ってきており、それらの国際協力の経験も今回の調査や発表に活かしています。

セミナーのプログラムや講演資料につきましては、世界銀行東京事務所のホームページに掲載されていますのでご覧いただきたいと思います

(<http://www.worldbank.org/ja/events/2016/03/14/modernizing-weather-climate-and-hydrological-services-and-early-warning-systems#1>)。

おわりに、今回の調査に当たっては、気象庁より多大な協力を頂いており、この場を借りて深く感謝申し上げます。



防災セミナーにおける講演者。左から、
ブラディミア ツィクルノフ 世界銀行グループ防災グローバル・ファシリティ
ー主席専門官

羽鳥 光彦 気象業務支援センター
(講演中) 理事長

栗城 稔 河川情報センター 研究
第二部長

諏訪 理 世界銀行グループ防災グ
(司会) ローバル・ファシリティ
ー防災専門官

(振興部)